

## 令和5年度第1回 名取市自転車活用推進協議会 会議録

### 1. 日時

令和5年10月24日(火) 10:00～11:15

### 2. 場所

名取市役所 6階 第2会議室

### 3. 出席者

別添名簿のとおり

### 4. 傍聴者

0名

### 5. 議事内容

#### 1) 名取市自転車活用推進計画の策定主旨について

#### 2) 自転車を取り巻く現況から施策の方向性について

- 事務局より自転車活用推進計画の策定趣旨、自転車を取り巻く現況及び、施策の方向性について説明。

#### 3) 質疑応答

(森委員)

- 今回の資料は、基本的に名取市内に限られた話をしている印象だが、名取市内でサイクリングをしただけでは正直物足りない。先日開催したイベントでは、サイクルスポーツセンターをスタートして南相馬市まで折り返して160km、もしくは相馬港で折り返して100kmというコースだった。県外まで行かなくても名取周辺には岩沼、村田、川崎、亘理、山元など観光資源を持つ自治体がたくさんあるので、観光に対して名取市がハブになるということはこの話の中で考えていくのか、それともあくまでも名取市の中だけで考えていくのか、事務局としての考えはどうか。

(事務局)

- この資料では市内が中心になっているが、例えば復興伝承ルートや仙台亘理自転車道など広域的な自転車ネットワークを意識していくことが必要だとは考えている。具体施策の中ではサイクルスポーツセンターでのイベントなど、周遊性を考慮しながら策定していきたいと考えている。

(星委員)

- ツールド東北ではいろんなコースを作っているが、最短でも60kmのコースになる。サイクルスポーツセンターの復興の時にコース作りについて提案したこともあるが、サイクルスポーツセンターのコースは上級者には危ない箇所がある。子どもたちの付き添いが多いという実情を鑑みると、上級者が入ることによるスピードが違う人達が混在する危なさやコースレイアウトについて考える必要が

ある。もちろん市の中で完結するサイクリングコースもあっていいと思うが、地域連携をして仙台や岩沼、亶理、村田など足を伸ばすハブとしてサイクルスポーツセンターが位置するということを将来的に考えると、名取市内のコースもボリュームアップするのではないか。ただ、名取から仙台に渡る橋は人が通るのも自転車が通るのも危ない。そういったところを提案していきながら、かわまちてらすから伸びるコースがあってもよいのではないかと思う。

- インバウンド事業で事業者と東北を回った際に、海外の方が魅力を感じることに、私たちが考えていることとは違い、日本特有の田園地帯や何もない海岸線を自転車で走ることが外国の方には人気だと知った。
- 飛行機に自転車を積んで空港で自転車を組立ててスタートできるような施設もあるが、コースがないためほとんど利用されていない。既存の施設を熟知して使えるようにしていけば名取は魅力ある街になると思う。
- まずほどの程度のボリューム感で考えるのか、街中でどのように完結するのか、もう一度既存施設を調べるなどして検討する必要がある。

(坂口会長)

- 今のご意見は、いろんなコースを設計する時に専門家がコミットする話と、どのように安全性等と共存していくかをチェックするためのリスクマップ、また電車に自転車を持ち込むケースもあると思うが、そういった場合の駅や駐輪場のあり方等の話だったと思うが事務局の方で何か意見はあるか。
- インバウンドなどについて、星委員がおっしゃる通り、市内に呼び込む部分についてどのくらい可能性があるのか掘り下げながら施策の中で展開したいと思う。今後の参考にして施策に反映したい。

(板谷委員)

- みちのく潮風トレイルを実際に歩いた時に、車やトラックが多く、普段サイクリングをする方はある程度高速で道路を走れると思うが、いわゆるママチャリなどは怖くて走れないのではないかと感じた。今日の話はサイクリングの普及と日常使いの自転車の普及ということだと思うが、日常使いの自転車の普及については、今車で通勤している方が自転車を使うことをイメージした時に、乗り換えをするのは難しいのではないか。自転車の矢羽根があるのはとてもいいことだと思うが、実際にそこを走って車が後ろで渋滞するという状況をイメージできてしまうので通勤での利用は難しいと感じる。歩道は自転車で走れないというルールはあるが、そのあたりを解決することが通勤通学で自転車を普及させるための鍵ではないか。今、通勤通学で自転車を利用している方は、車に乗れない方や持っていない方が利用している状況である。積極的に乗り換えるためにはそういったことの整備が必要だと思う。

#### 4) その他

- 事務局より今年度策定に向けた、自転車活用推進計画の策定スケジュールについて説明。

令和 5年 10月 31日

会 長 坂口 大洋